出題は正誤問題です。正〇 誤× のどちらかを選択します。
官能評価士認定テキストに記載されている内容から出題され、第 1 章から第 5 章の範囲で、知識の正確さを問います。計算問題は出題されません。 ただし本試験では、本来イタリック体の文字で示すべき記号を通常のローマ字で表記しています。

試験では 1 画面に 1 題出題され 100 問を 45 分以内に答えます。

以下設問例です。
官能評価には主観的に評価する評価型官能評価と客観的に評価する分析型官能評価がある。
〇 か × を選択

一つの正弦波からなる音を雑音という。雑音以外の音を複合音と呼ぶが、これは楽音と純音の 2 つに分けられる。
〇 か × を選択

皮膚の機械変形に応答するセンサであるパチニ小体は低周波振動に対して非常に高い感度で応答し、低周波振動覚を生じさせる。
〇 か × を選択

パネルとは官能評価に参加する個人のことを指す。
〇 か × を選択

照明が異なっても試料の見え方に影響はないので、光源色に注意する必要は無い。
〇 か × を選択

母集団の平均値を標本平均と呼び、抽出した標本データの平均値を母平均と呼ぶ。
〇 か × を選択

正規分布は統計解析において基本となる確率分布であり、母平均が 0、母分散が 1 であるものをカイ 2 乗(χ^2)分布と呼ぶ。
〇 か × を選択

1：2 点試験法は対照試料 A を提示し、その後に、対照試料と異なる試料 B と試料 A の組を提示して、どちらが A かを判断させる方法である。外観、味などを含めて全体の質的な違いを判断する。
〇 か × を選択

スピアマンの順位相関係数では、順位をそのまま計量値とみなし、通常の相関係数で 2 組の順位の関連性の強弱を見る。
〇 か ×を選択